

個別事業説明書【PR版】

教 育 委 員 会

1 ソーシャルチャレンジ for High School事業費

高校生が、地域社会と連携しながら地域課題の解決を図る体験的な活動を実践するとともに、愛媛で働く魅力の発信、多世代交流等の様々な活動を行うことにより、地域に愛着を持ち、地域社会で主体的に活躍できる人材を育成する。		お問い合わせ先 教育委員会事務局指導部 高校教育課 (089-912-2950)	
指標	施策	3 若者が活躍できる環境の整備 ①県立高校の生徒の県内企業の認知度 ②若者（15歳～29歳）の転出超過数 KGI	現状値 ①84.0%（R5年度）②3,989人（R5年） 目標値 ①80.0%（R8年度）②2,230人（R8年）
	細施策	3-4 地域を担う人材の育成 KGI 県立高校新規卒業者の就職者のうち県内就職率	現状値 81.0%（R5年度） 目標値 84.0%（R8年度）

事業イメージ		KPI 地域課題解決学習に取り組めた生徒の割合 (約2%/年増)	現状値 79.8%（R6年度） 目標値 85.0%（R7年度）	事業概要	【新しい地方経済・生活環境創生交付金充当事業】
1 地域の課題解決プロジェクト		20,426千円			1 地域の課題解決プロジェクト
地域課題とその解決策を学習		実施学年・時期は各校の教育課程に基づき設定し、全ての生徒が3年間で一度は参画			実施校：県立高等学校・中等教育学校（全日制課程）54校（分校7校を含む。）
発展		多様な分野の専門家の同時招へいによるテーマ別グループディスカッション 現地でのフィールドワーク・研究成果を発表し合うポスターセッション など 生徒が考えたアイデアの中から地域と協働した活動を実践 （例）SDGs達成に向けた地元企業やNPO法人と連携した取り組み 環境保全や自然保護に向けた大学と連携した取り組み など 地域社会で主体的に活動できる人材の育成			経 費：3学年9学級以上39万円程度、3学年9学級未満24万円程度
高校生による地域の魅力再発見・PR動画の作成		（例）地元企業によるSDGs実現への取り組みや地元Uターン就職者へのインタビュー 地域の優れた伝統や文化、新たな魅力等を紹介 など 愛媛で暮らすことや、働くことの意義の再発見			（ア）課題解決に向けた研究活動 ・イベントの企画・運営、宣伝・広告、講師の招へい、商品の開発 など ・全ての学校が活動成果を「ソーシャルチャレンジグランプリ」に出品 ・「ソーシャルチャレンジグランプリ」優秀校9校は、全ての学校が参加する成果報告会において、実践発表及び意見交換
成果発表		課題解決コンテスト「ソーシャルチャレンジグランプリ」での成果発表 実践事例紹介Webページへの掲載、全国規模のコンテスト等へ出品 県内高校生に先進的な取り組みや成果の普及			（イ）高校生による地域の魅力再発見・PR動画の作成 ・全ての学校がPR動画を作成 ・優秀作品を決定するとともに、教育委員会が作成した特設サイト内で全ての動画を共有
《R5年度の成果》		・地域の課題解決学習に取り組む学校の増加 ・課題解決に係るコンテスト等への参加増 社会共創コンテスト参加校24校（R4から8校増）、全国規模の大会でも活躍			2 社会共生プロジェクト
2 社会共生プロジェクト		在学中に全ての生徒が活動を経験			（1）多世代交流プログラム
多世代交流プログラム		2,840千円			実施校：県立高等学校・中等教育学校（全日制課程）54校（分校7校を含む。）
幼児や高齢者との交流活動の実施		経 費：5.3万円程度			
自己肯定感、他者を思いやる心、豊かな心の育成		主権者・消費者教育プログラム			（2）主権者・消費者教育プログラム
		937千円			実施校：県立高等学校・中等教育学校（全日制・定時制・通信制課程、専攻科）のべ66校（分校8校を含む。）
		講演、模擬投票、模擬議会等の実施			経 費：1.5万円程度
		政治的教養や消費者意識の高揚			

2 えひめジョブチャレンジU-15事業費

令和7年度当初予算（案）
予算額 11,668千円

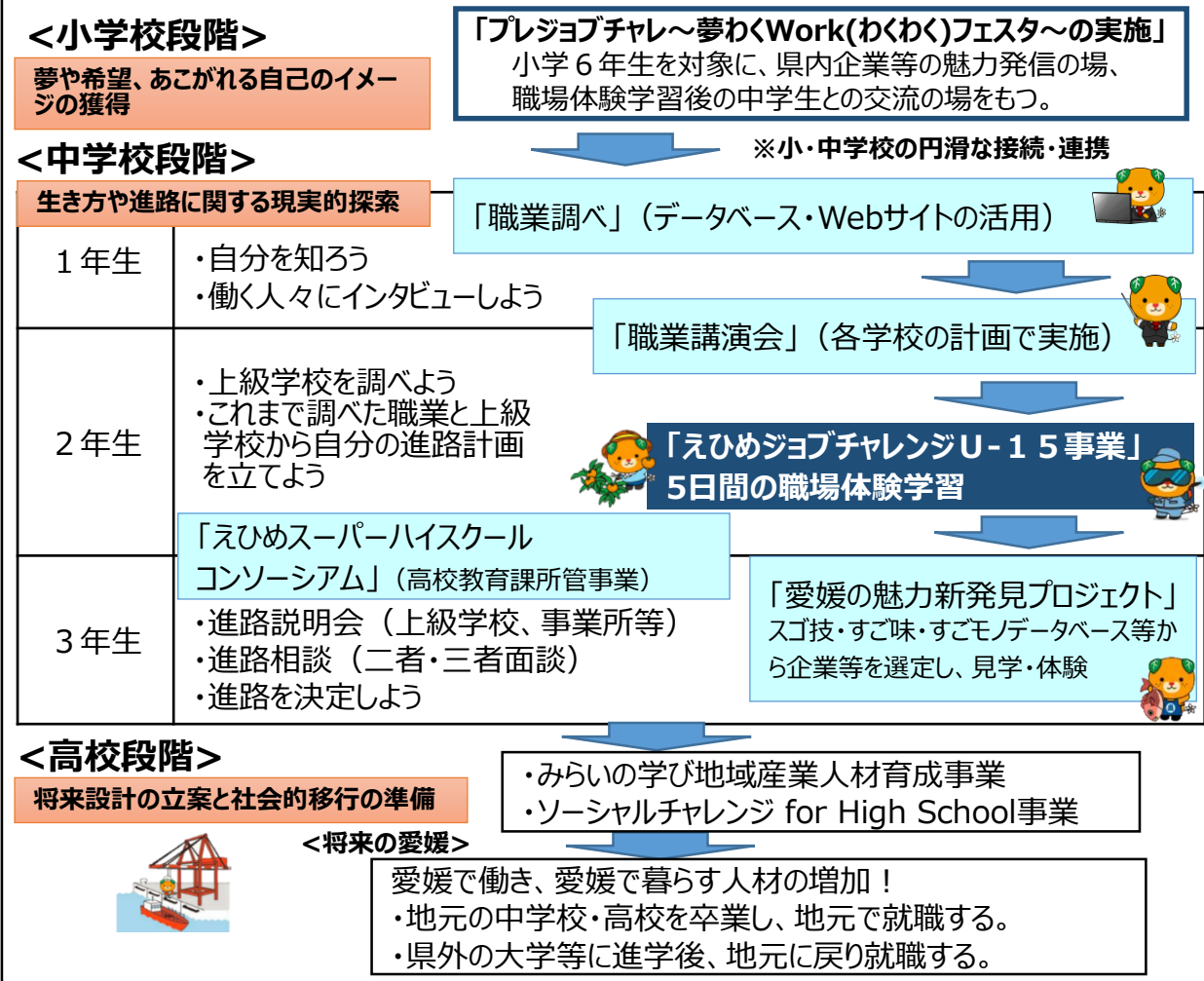
県内全ての中学生が取り組む職場体験学習に加え、小学6年生を対象としたプレジョブチャレを実施し、地域産業や企業等のよさ、地元で働く魅力を実感させることで、義務教育段階での望ましい勤労観、職業観を育成する。

お問い合わせ先
教育委員会事務局指導部
義務教育課
(089-912-2940)

指標	施策	3 若者が活躍できる環境の整備 ①県立高校の生徒の県内企業の認知度 ②若者（15歳～29歳）の転出超過数	現状値 ①84.0%（R5年度）②3,989人（R5年） 目標値 ①80.0%（R8年度）②2,230人（R8年）
	細施策	3-4 地域を担う人材の育成 KGI 県立高校新規卒業者の就職者のうち県内就職率	現状値 81.0%（R5年度） 目標値 84.0%（R8年度）

事業イメージ	KPI	職場体験学習が充実していたと回答した中学生の割合 （過去最高のR3年度を更新）	現状値 96.3%（R5年度） 目標値 97.3%（R8年度）
--------	-----	--	------------------------------------

事業概要



- 1 プレジョブチャレ「夢わくWork(わくわく)フェスタ」(6,897千円)
【対象】全公立小学校第6学年（約1万人）【内容】全県一斉授業
○スゴ技企業等の職場紹介動画及び職業人とのオンライン交流
○中学生による職場体験学習の発表及びオンライン交流
- 【参集会場】 中学生代表（各管内1校） 職業人（動画協力企業のうち2企業）
- 愛媛の企業ってすごい！
ジョブチャレ楽しみ！
- A小学校 B小学校 C小学校
- 2 えひめジョブチャレンジU-15事業(4,771千円)
- (1) 5日間の職場体験学習の実施
対象校：県内全公立中学校123校、県立中等教育学校（前期課程）3校
参加する生徒は賠償責任保険に加入（保険料は県が負担）
- (2) 「地域を越えて、愛媛を知ろう！愛媛の魅力新発見プロジェクト」
実施校：プロジェクト参加希望校（東・中・南予 各4校程度）
スゴ技・すご味・すごモノデータベース登録事業所等の見学・体験を行い、コンソーシアム等における発表により成果を普及
- (3) 登録事業所等データベース及びWebサイトの活用
データベースの利用を学校及び受入事業所等に促し、学校と受入事業所等のマッチングを図るとともに受入事業所等の確保に努める。また、実施校の取組レポート等を掲載し、事業の周知を図る。



3 みらいの学び地域産業人材育成事業費

令和7年度当初予算（案）
予算額 22,124千円

これまで、連携を深めてきた地域や産業界の人的・物的資源を最大限に活用し、全ての職業学科において新たなプログラムを実施し、県内企業への理解を深める取組みを通して、将来、地域産業を支える専門的職業人を育成し、地域産業の発展や、若者の定着を推進する。

お問い合わせ先
教育委員会事務局指導部
高校教育課
(089-912-2950)

指標	施策	3 若者が活躍できる環境の整備 ①県立高校の生徒の県内企業の認知度 ②若者（15歳～29歳）の転出超過数	現状値 ①84.0%（R5年度）②3,989人（R5年） 目標値 ①80.0%（R8年度）②2,230人（R8年）
	細施策	3-4 地域を担う人材の育成 KGI 県立高校新規卒業者の就職者のうち県内就職率	現状値 81.0%（R5年度） 目標値 84.0%（R8年度）

事業イメージ

KPI

本事業受講者の就職者のうち、県内就職者割合
(約1%/年増を目指す)

現状値 77.6%（R5年度）
目標値 81.0%（R8年度）

事業概要

※「三浦保」愛基金を活用

課題

各学科

以下の学習機会等が不足している

- 商業** ビジネス現場に踏み込んだ、より実践的な学び
- 工業** 現場で求められる最新技術や実践的な知識の習得
- 水産** 最新の養殖技術の習得、魚介類の消費離れへの対応
- 農業** G A P 認証農作物の最新の活用技術の習得
- 家庭** 若年世代の地域への愛着や関心、伝統文化の継承
- 福祉** 現場のニーズに応える最新介護技術と実践知識の習得

対策

新たな視点を導入

新プロジェクト

企業の成り立ちを学ぶ

企業独自の先進技術や開発商品に対する企業や技術者の思いを知る

- 商業** 「ソーシャルメディアを活用した地元企業のプロモーション動画の作成」
- 工業** 「ロボット教育による制御技術等の研究開発」「教員対象最先端技術研修」
- 水産** 「希少になった魚類の養殖研究」「地域漁協と連携した魚食教育普及活動」
- 農業** 「G A P 認証農作物を活用した商品開発や海外輸出等の研究」
- 家庭** 「地域の小・中学生と実施する地域特産物や伝統文化を活用したワークショップ」
- 福祉** 「高校生×地域 福祉サミット202X」の実施（高校生と事業所の連携交流）

事業効果

☑即戦力となる人材の育成

☑地域産業を牽引できる人材の育成

地域の人的・物的資源を最大限に活用

地域産業の発展や若者定着を推進

1 商業 9校 3,770千円

対象：三島、新居浜商業、西条、今治北、松山商業、東温、大洲、八幡浜、宇和島東
内容：ソーシャルメディアを活用した地元企業のプロモーション動画の作成
地域資源を活用した商品の開発・販売 等

2 工業 7校 10,400千円

対象：新居浜工業、東予、今治工業、松山南砥部、松山工業、八幡浜工業、吉田
内容：ロボット教育プログラム、企業技術者等による「匠の技教室」
デュアルシステム（地元企業での継続的な就業体験）
企業と工業高校生によるマッチングフェア 等

3 水産 1校 408千円

対象：宇和島水産
内容：気候変動等により希少となった魚類養殖の研究
地域水産物を活用した6次産業化の取組み、地域漁協と連携した魚食教育活動 等

4 農業 12校 5,939千円

対象：西条農業、丹原、今治南、上浮穴、伊予農業、大洲農業、川之石、宇和、野村、北宇和、北宇和三間、南宇和
内容：G A P 認証農作物を活用した商品開発や海外輸出等の研究
農業用ドローン等の最先端技術を活用した実習 等

5 家庭 1校 411千円

対象：小松
内容：小・中学生と地域特産物や伝統・文化を活用したワークショップ
サステナブルな商品の開発、関連企業等の体験研修 等

6 福祉 3校 1,196千円

対象：新居浜南、北条、川之石
内容：福祉サミット（高校生と事業所の関係交流）、関連企業等の体験研修 等

※情報 R 8 年度に 2 校、R 9 年度に 1 校追加（振興計画による）



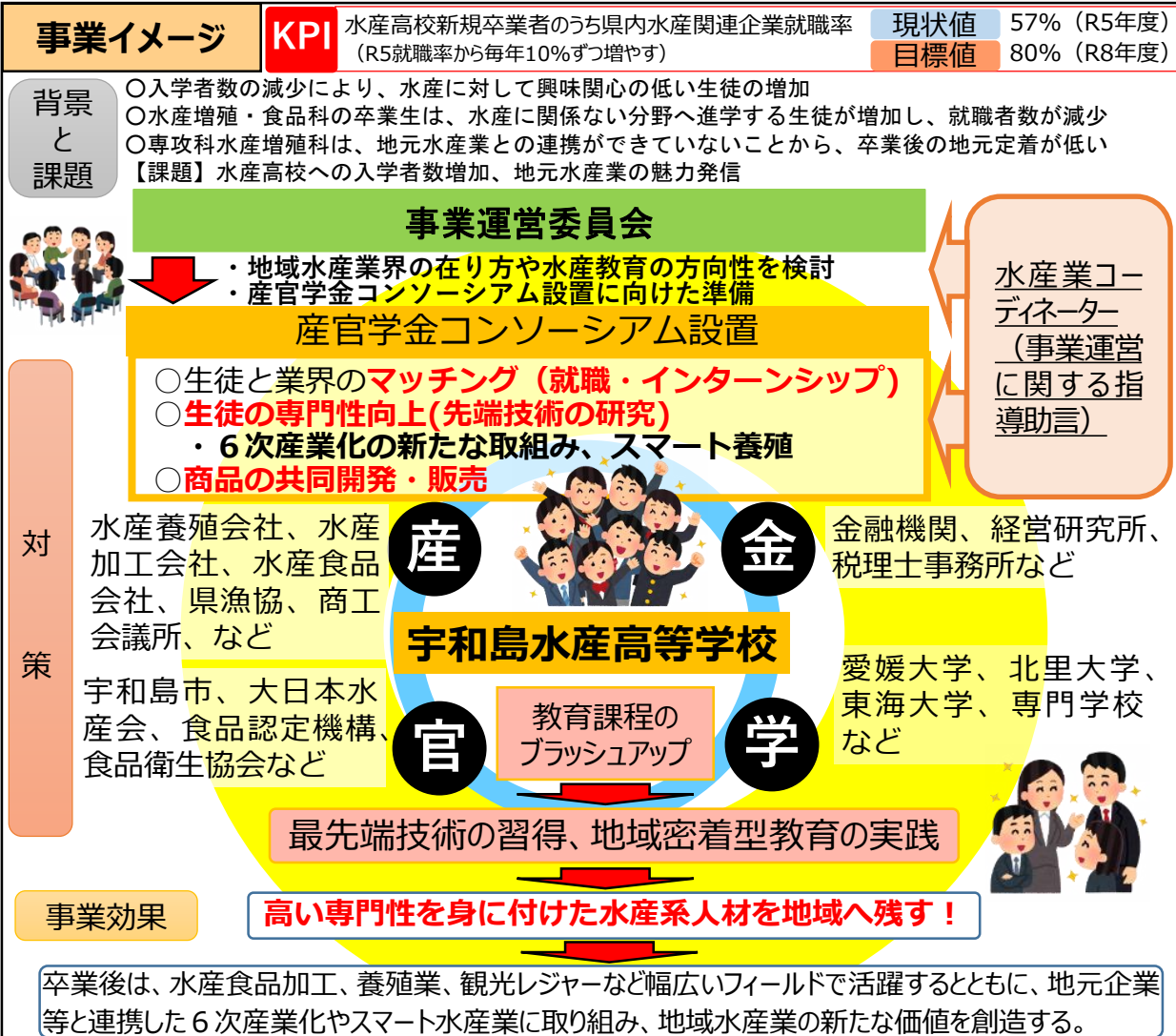
4 えひめ水産業次世代人材育成事業費

令和7年度当初予算（案）
予算額 8,700千円

南予の水産業の発展を目指して、次世代の水産業を担う人材を育成する。特に、水産養殖業及び食品産業の分野を中心に地域と連携・協働を通して、地域の課題を理解し、解決するために主体的に行動できる力の習得に努め、高い専門性と豊かな人間性を兼ね備えた職業人を育成する。

お問い合わせ先
教育委員会事務局指導部
高校教育課
(089-912-2950)

指標	施策	3 若者が活躍できる環境の整備 KGI 若者（15歳～29歳）の転出超過数	現状値 3,989人（R5年） 目標値 2,230人（R8年）
	細施策	3-4 地域を担う人材の育成 KGI 県立高校新規卒業者の就職者のうち県内就職率	現状値 81.0%（R5年度） 目標値 84.0%（R8年度）



事業概要 【新しい地方経済・生活環境創生交付金充当事業】

1 次世代人材育成に向けた連携体制の構築 3,918千円

- ◆**地域水産業界の持続的な発展**
 - 水産業コーディネーターの配置 1名** 1,640千円
学校と水産業界をコーディネートする役割（水産業界に精通した人材）
 - 事業運営委員会の運営（4回）** 819千円
内容：・産官学金コンソーシアム設置に向けた準備
・産官学金が一体となり、将来の地域水産業界の在り方を検討
・高校段階での人材育成の在り方を検討 など
構成：14名（大学・水産関連産業、行政）
 - コンソーシアムの設置・運営** 1,459千円
内容：・インターンシップの実施等による生徒と業界のマッチング
・水産に関する専門性の向上
・協力企業等との商品の共同開発、水産物・水産加工物の販売促進
・地元水産業を生かした教育課程開発の支援
構成：メンバー20名（各企業、経済団体、大学等から選出）

2 水産高校の教育内容の改革 4,782千円

- ◆**産業人材育成の教育充実**
 - 企業等技術者から、生徒や教員への技術的な支援** 988千円
内容：講演・技術指導（年2回）、県内企業等見学（年2回）
 - 本科水産増殖科・水産食品科での高度な実践** 2,881千円
内容：輸出可能な水産物の生産（通年）、えひめの水産物の魅力発信（通年）、県外・海外企業等見学（通年）
 - 水産増殖系専攻科の新しい研究** 913千円
内容：スマート水産業（ICTを活用した飼育管理）、海外輸出に向けた水産加工品の研究、6次産業化（養殖⇒加工⇒マーケティング・流通）の実施

スケジュール	R 7	R 8・9
	○次世代人材育成に向けた連携体制の構築 ○水産教育の改革	○6次産業化・スマート水産業への挑戦 ○水産高校産養殖魚のブランド化 ○国内外への視察研修 ※必要に応じて施設・設備の整備を検討



5 県指定文化財デジタル化保存・活用推進事業費

令和7年度当初予算（案）
予算額 22,500千円

デジタル技術を活用した文化財資料（測量データ）の収集・保存により、文化財の散逸・消滅対策を講じるとともに、その資料を活用した文化財の魅力発信等による普及啓発を通して、次世代への確実な継承を図る。

お問い合わせ先
教育委員会事務局管理部
文化財保護課
(089-912-2975)

指標

指標	施策	9 スポーツや文化芸術などの充実	現状値	51.8%（R5年度）
	KGI	スポーツや文化活動、学習活動の実施率	目標値	54.1%（R8年度）
指標	細施策	9-5 文化財の保存・活用の推進	現状値	100%（R5年度）
	KGI	適正に保存・活用されている国・県の文化財割合	目標値	100%（R8年度）

事業イメージ

KPI	デジタル化により、散逸・消滅対策が図られた県指定文化財の件数（年2件を目指す）	現状値	-
		目標値	4件（R7～8年度累計）



現状と課題



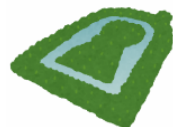
- 自然災害の激甚化・頻発化（R6.8.8南海トラフ地震臨時情報発表）
→文化財被災時の復旧が困難 ⇒ 散逸・消滅を危惧
・文化財は「被災直前の状態に戻す」が原則
⇒そのためには被災前の測量データ等が必要
例：近世城郭の石垣復旧では、3次元測量データや写真など復旧に必要な詳細な資料がなかったため、復元までに長期間を要している事例がある
- 過疎化・少子高齢化により祭りが減少
⇒継承・復活には、保存会や市町が中心となり映像記録を残すことが不可欠
例：どろんこ祭り(西予市)や子供太鼓台(四国中央市)では、ノウハウの引継ぎや担い手不足のため、やむなく活動を休止・終了
【参考】県指定文化財：史跡50件、建造物22件、無形民俗文化財36件

対策

1 残す 〈散逸・消滅対策〉	2 伝える 〈普及啓発〉	3 活かす 〈教育等への活用〉
●文化財基礎資料収集 ●祭り継承研修会の開催	●3Dデータの公開 ●普及啓発イベントの開催	●デジタル教材の活用 ●測量現場での体験実習

効果

- ・3Dデータの活用により迅速な災害復旧が可能
- ・映像記録による祭りの継承・復活の円滑化
- ・地域の宝を再発見し郷土愛の醸成や地域の活性化に繋げる



事業概要

【新しい地方経済・生活環境創生交付金充当事業】

1. 残す〈散逸・消滅対策〉 13,104千円
(1) 県指定文化財(県所有建造物・史跡)の3次元測量調査及び3Dデータ化〈委託〉
・対象：明教館(松山東高校内)、中江藤樹の邸跡(大洲高校内)、大下田古墳1号・2号(県総合運動公園内)、東野お茶屋跡(県研修所横)
・件数：年2件程度（R9年度までの目標5件）
⇒市町に成果を共有し、3次元測量(デジタル化)の機運を醸成
(2) 祭りに関する研修会「祭り継承研修会」の開催
・対象：保存会、市町
・内容：祭りの映像記録方法、地域活性化への取組み事例等の紹介
映像記録等に関する助成制度等の紹介
・講師：NPO法人、国関係機関など
⇒保存会や市町で映像記録撮影(デジタル化)の機運を醸成



2. 伝える〈普及啓発〉 8,696千円
(1) 普及啓発イベント「文化財フェア」の開催
・場 所：エミフル松前を想定
・内 容：体験学習、文化財クイズ、文化財に関する展示ブース設営
(2) 普及啓発グッズを作成しイベント等で配布
(3) ホームページをリニューアル〈委託〉
・3D測量データのウェブ公開(専用アプリにより拡大・回転など自由に3Dモデルの閲覧が可能)
・当課Instagramと連携

3. 活かす〈教育等への活用〉 700千円
(1) デジタル教材として学校現場で活用（データを活用した3Dモデリング）
(2) 測量現場での体験実習（文化財の3次元測量の学習）
(3) 博物館での3Dデータ等の一般公開





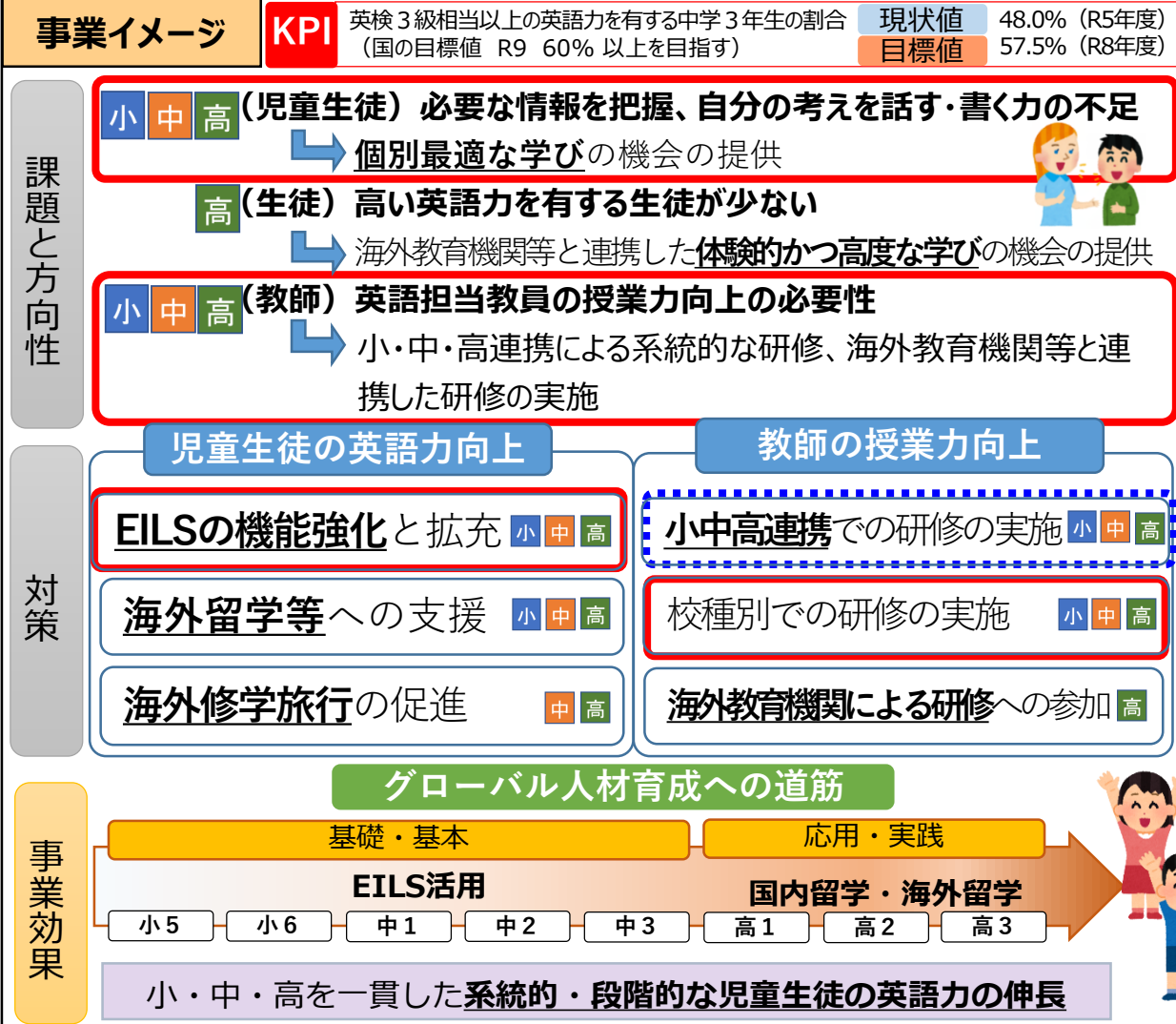
6 グローバル人材育成に向けた英語力強化事業費

令和7年度当初予算（案）
予算額 72,451千円

「聞いたり読んだりしたことについて、自分の考えとその理由を話したり書いたりすること」「自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ったり読み取ったりすること」といった課題を克服し、グローバル人材を育成するため、児童生徒の英語力の強化を図る。

お問い合わせ先
教育委員会事務局指導部
義務教育課
(089-912-2940)

指標	施策	10 子どもたちの可能性を伸ばす多様な教育の提供 KGI 将来の夢や希望を持っている児童生徒の割合	現状値 小83.8% 中68.9% (R5年度) 目標値 小：前年度の全国5位の数値 (R8年度) 中：前年度の全国10位の数値 (R8年度)
	細施策	10-2 確かな学力の定着と向上 KGI 全国学力調査において、学力の定着に関する設問のうち全国平均以上の設問数の割合	現状値 20% (R5年度) 目標値 60% (R8年度)



事業概要 【デジタル社会形成推進基金充当事業】

- 児童生徒の英語力向上**
 - EILS (県独自のCBTシステム) の機能強化 小中高 **新規** (32,120千円)
⇒ 英語の「話す」「聞く」能力の強化に向けた機能の開発・搭載
 - スピーキングチェック機能
 - リスニングチェック機能
 - 録音・集約機能
 - 対話型AI等英語教材の作成・提供 小中高 (35,359千円)
⇒ 生成AIを活用した英会話練習や、英検等の資格取得に繋がる技能強化のための教材作成
 - フリートーク教材 **新規**
 - 英語学習成果確認教材 **拡充**
- 教師の授業力向上**
 - 小中高連携での授業力向上研修の実施 小中高
⇒ 小中学校及び高校の英語担当教師と外国語指導助手が、授業改善に資する研究協議等を行う。
[高校教育課事業として実施]
 - 校種別での授業力向上研修の実施 小中 (4,972千円)
⇒ 児童生徒の英語コミュニケーション能力向上を達成するための授業の在り方について、講義・演習等を通して学ぶ。
 - 文科省調査官等の有識者を招へい
 - 民間英語教育事業者との連携によるワークショップ



7 地元で活躍するグローバル人材育成事業費

令和7年度当初予算（案）
予算額 50,761千円

テンブル大学ジャパンキャンパスとの連携や留学等を通して、体験的かつ高度な学びの機会を提供し、生徒の英語力と英語担当教師の授業力の向上を図るとともに、高校生等を対象に留学の報告や県内企業による情報提供等を実施して、留学への機運を醸成することにより、豊かな語学力・コミュニケーション能力を身に付けた、将来の愛媛を支える「グローバル人材」を育成する。

お問い合わせ先
教育委員会事務局指導部
高校教育課
(089-912-2950)

指標

施策

10 子どもたちの可能性を伸ばす多様な教育の提供

KGI

県立高校における夢や目標を持っている生徒の割合

現状値 82.0% (R5年度)

目標値 84.0% (R8年度)

細施策

10-3 夢を実現する学力・技術力の保障

KGI

各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った生徒の割合

現状値 84.7% (R5年度)

目標値 91.0% (R8年度)

事業イメージ

KPI

英検2級相当以上の英語力を有する高校3年生の割合
(国の目標値 R9 30% 以上を目指す)

現状値 19.1% (R5年度)

目標値 28.0% (R8年度)

事業概要

※「三浦保」愛基金を活用

課題と方向性

小中高

(児童生徒) 必要な情報を把握、自分の考えを話す・書く力の不足

→ 個別最適な学びの機会の提供

高

(生徒) 高い英語力を有する生徒が少ない

→ 海外教育機関等と連携した体験的かつ高度な学びの機会の提供

小中高

(教師) 英語担当教員の授業力向上の必要性

→ 小・中・高連携による系統的な研修、海外教育機関等と連携した研修の実施



児童生徒の英語力向上

EILSの機能強化と拡充

小中高

海外留学等への支援

小中高

海外修学旅行の促進

中高

教師の授業力向上

小中高連携での研修の実施

小中高

校種別での研修の実施

小中高

海外教育機関による研修への参加

高

グローバル人材育成への道筋

基礎・基本

応用・実践

EILS活用

国内留学・海外留学

小5 小6 中1 中2 中3 高1 高2 高3

小・中・高を一貫した系統的・段階的な児童生徒の英語力の伸長



生徒の英語力向上

1 えひめ版「国内留学プログラム」

2,539千円

⇒ 対象：県立高校及び県立中等教育学校の生徒25名
内容：テンブル大学ジャパンキャンパスでの英語学習プログラムに参加

2 海外短期留学

30,000千円

⇒ 対象：国際科等設置予定3校の生徒60名
内容：2週間程度の海外留学を実施

3 地元での活躍を促進する留学フェア

4,782千円

⇒ 対象：留学に興味のある小・中・高校生等
内容：留學生徒の体験報告や、海外展開している県内企業との情報交換等を実施

4 海外修学旅行の促進

11,000千円

⇒ 対象：海外修学旅行に参加する生徒のうち、パスポートを新規取得又は更新する生徒1,000名
内容：海外での異文化理解、語学学習の機会を広げるためパスポート取得の費用を補助

※松山空港国際線を利用したアウトバウンドの促進

教師の授業力向上

5 日本人英語教師スキルアップ研修プログラム

2,440千円

⇒ 対象：県内の英語教育をリードする教師（高度な英語力を有する生徒への指導に対応できる教師）10名
内容：テンブル大学ジャパンキャンパスによる研修プログラムを受講
対面セミナー3回 ビデオレクチャー6回



8 えひめデジタル・シティズンシップ育成事業費

令和7年度当初予算（案）
予算額 7,720千円

新技術を適切に扱う実践力とネットトラブルへの対応力等を、発達の段階に応じて全ての児童生徒に早急に育成するために、安全・安心な環境で、多種多様なネットトラブルを疑似体験できるアプリを開発し、情報社会に参画する態度や自律的な行動規範の育成を図る。

お問い合わせ先
教育委員会事務局指導部
義務教育課
(089-912-2940)

指標

施策

10 子どもたちの可能性を伸ばす多様な教育の提供
KGI 受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていたと感じる児童生徒の割合

現状値 小:83.6% 中75.3% (R5年度)
目標値 前年度の全国10位の数値 (R8年度)

細施策

10-2 確かな学力の定着と向上
KGI 全国学力調査において、学力の定着に関する設問のうち全国平均以上の設問数の割合

現状値 20% (R5年度)
目標値 60% (R8年度)

事業イメージ

KPI ネットトラブルにあっていない児童生徒の割合
(予防可能なトラブル回避率93.7%以上を目指す)
現状値 88.5% (R5年度)
目標値 93.7% (R8年度)

今、求められる「デジタル・シティズンシップ」とは

「デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力」

- 情報社会へ参画する態度 ➢ 「安全・安心に使う」ための積極的な活用力
- 自律的な行動規範 ➢ ネット上での倫理的で責任ある行動

課題・現状

自分専用のスマートフォン等を所有している児童生徒の割合(%)

R5年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
所有率	29.6	35.7	43.8	49.5	55.6	64.7	80.9	85.1	88.1

SNSや生成AI等を日常的に使用しているが、各学校では生成AI等の新技術については十分な教材や指導時間の確保ができていない

児童生徒を取り巻く多種多様なトラブルへの対応力の育成が急務

えひめデジタル・シティズンシップ育成アプリ開発

最新の動向に合わせた
テーマを選択して生成AIを
利用した疑似体験・検定

アドバイスを
生成AIが
即時フィードバック

EILSでの
活用により

児童生徒が安全・安心に使うための環境構築
学校・教員が活用状況や実態を把握し、指導可能

多種多様なネットトラブルに対応

一人一人に最適な学び

- ・ デジタルコミュニケーション等による積極的な活用力
- ・ 安全、責任、相互尊重を踏まえた自律的な行動規範の育成

事業概要

1 アプリ開発 (5,200千円)

(1) 対象 県内全小・中学生

(2) 内容 生成AIを活用して児童生徒がネットトラブルに関する疑似体験や検定を行うアプリの開発（委託）

(3) アプリの概要

①児童生徒が項目を選択

- ・ 最新の動向に合わせたテーマで生成AIが疑似体験や検定を生成
- ・ 約500パターンの内容を随時更新

だれと？

- ☐ 友達と
- ☒ 見ず知らずの人と
- ☐ 怪しい業者と
- ☐ おまかせ

何を使っての
トラブル？

- ☒ SNS
- ☐ メール
- ☐ Webページ
- ☐ アプリ
- ☐ スマホ等の機器
- ☐ おまかせ

どんなことを？

- ☐ ネットいじめ
- ☐ 健康被害
- ☒ 個人情報
- ☒ 情報の真偽
- ☐ 生成AI
- ☐ おまかせ

②疑似体験・検定

児童生徒が自分の言葉で
生成AIとやりとり



投稿していた犬の写真、とってもかわいいね！私も犬を飼ってます！写真撮ったのってどこの公園ですか？

犬好きなんです！〇〇公園で撮りました！



やっぱり！私は近くの△△学校に通っています。今度一緒に犬の散歩したり公園で遊ばせたりしませんか？

いいですね！私は☆☆学校に通ってますよ！

③生成AIからのフィードバック

生成AIが迅速かつ適切な
対応をアドバイス



あなたが発信したメッセージには「場所を特定する情報」が入っています。見知らぬ人にそのような個人情報を教えてはいけません。自分の安全を第一に考え、リスクを回避する姿勢を持ちましょう。

2 アプリ運用保守 アプリ運用保守費用・生成AI利用費用 (2,520千円)